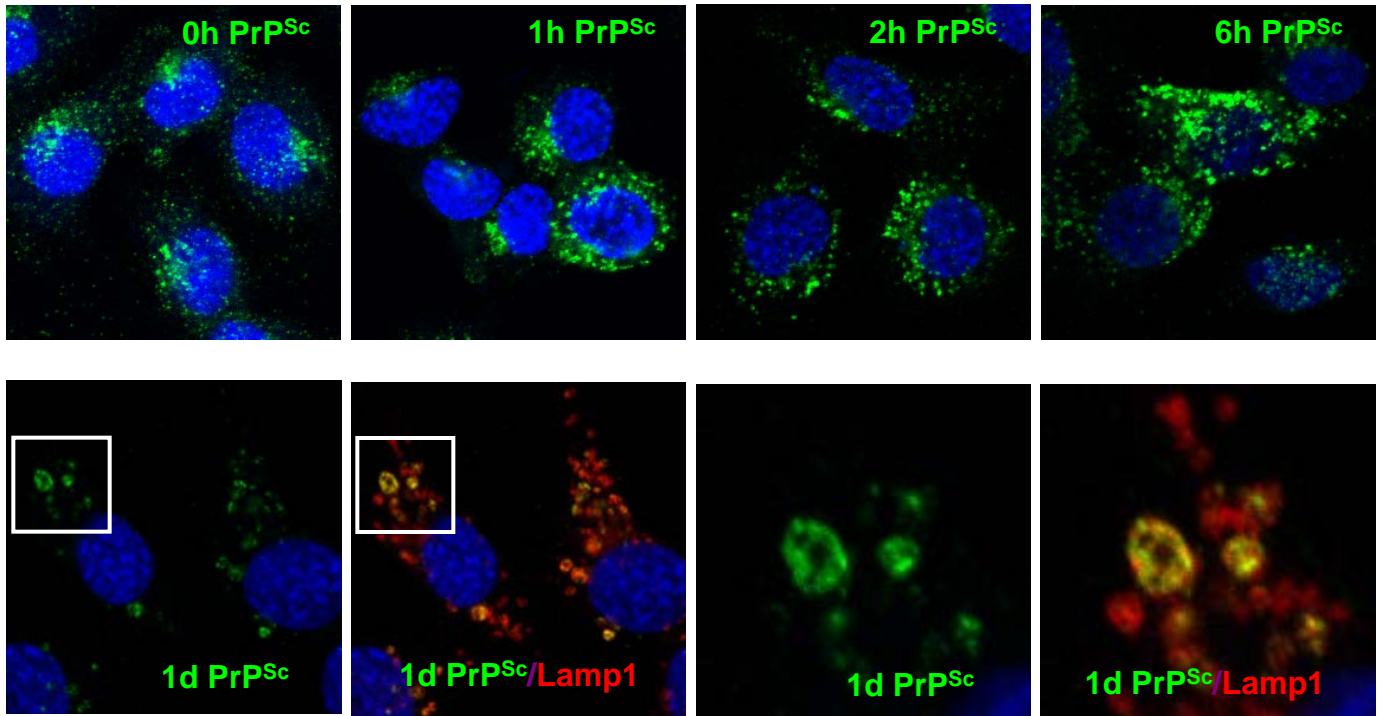


クロルプロマジン処理によるPrP^{Sc}細胞内局在の変化

研究分担者: 北海道大学大学院獣医学研究科 堀内基広



緑: PrP^{Sc}; 赤: Lamp1; 青: 核

解 説

1. プリオン持続感染細胞をクロルプロマジンで処理後0, 1, 2, 6時間後(上段)、1日後のPrP^{Sc}の細胞内局在を調べた(下段)。
2. PrP^{Sc}の細胞内局在は処理開始2時間後から変化し、1日後には著しく減少した。
3. 1日後ではPrP^{Sc}の大部分がLamp1陽性の後期エンドソーム/多胞体に局在した。
4. 本法は、抗プリオン化合物の作用機序の解明に有用である。